

International Symposium at Kyoto University

Saturday, September 21, 10:00 - 16:45

Acting with NONHUMAN Entities

Posthumanist Explorations between Anthropology and Science Studies

Speakers:

Matei Candea

(University of Cambridge)

Mei Zhan

(University of California, Irvine)

Miho Ishii

(Kyoto University)

Natasha Myers

(York University)

ACTING WITH NONHUMAN ENTITIES

Posthumanist Explorations between Anthropology and Science Studies

「人でないもの」の人類学はいかに可能になるのか？

動物、人工物、精霊 …

ともにこの世界に棲む存在たちと人はいかに関わるのか？ 人類学の古くからの問いに、アクターネットワーク論世代の気鋭の論者が挑む。

Saturday, September 21

京都大学人文科学研究所 4階大会議室

- 10:00 **Welcome Address & Introduction**
Atsuro Morita and Gergely Mohácsi
- 10:15 Natasha Myers (York U)
- 11:15 Break
- 11:30 Mei Zhan (UC Irvine)
- 12:30 Lunch
- 13:30 Miho Ishii (Kyoto U)
- 14:30 Matei Candea (U Cambridge)
- 15:30 Break
- 15:45 **Comments**
- 16:10 **General Discussion**
- 16:45 END

Matei Candea: G. タルドのモノ論的社会学とM. ストラザンの関係論的人類学に着想を得て、コルシカ島での土地とアイデンティティ、差異の関係を研究。現在は、同じ視点から、カラハリ砂漠におけるミーアキャットと動物行動学者の相互的な関係を研究している。主著に、*Corsican Fragments* (Indiana UP), *The Social After Gabriel Tarde* (Cambridge UP)。

Mei Zhan: 現代における漢方の実践と言説を、場所を超えた出会いと移動の中での絶え間ない生成として描き出した民族誌 *Other-worldly: Making Chinese Medicine through Transnational Frames* (Duke UP)で注目を集める若手人類学者。近年は、道教における存在論を人類学的に捉え直す試みを行っている。

石井美保: ガーナ、および南インド・カルナータカにおける精霊と儀礼における超自然的な現象を、身体とモノの生成的な変容に注目して捉えようとしてきた。主著に『精霊たちのフロンティア』（世界思想社）ほか、論文多数。現在はカルナータカにおける石油化学コンビナード建設と土地の守護霊の葛藤と共存について研究を行っている。

Natasha Myers: 科学の実践における科学者と対象、テクノロジーの間の身体的、情動的で、エコロジカルな関係に注目する人類学者。蛋白構造モデリングにおける3D技術と身体の絡み合いを描いた *Molecular Embodiments and the Body-work of Modeling in Protein Crystallography* (*Social Studies of Science*)でNicholas C Mullins Awardを受賞。現在は、植物の知覚を研究する科学者たちと植物の関係を追いかけている。



企画運営：モハーチ・ゲルゲイ、森田敦郎（大阪大学）

主催：科学技術研究費補助金「人類学の方法/対象としての比較の再検討」（大阪大学）
京都大学人文科学研究所共同研究「環境インフラストラクチャー」

問い合わせ：morita@hus.osaka-u.ac.jp

